

「あずましい」暮らしのために未来に引き継ごう、恵み豊かな環境を

※「あずましい」：落ち着いて心地よいという意味



平成20年の洞爺湖サミットをきっかけにして、道内の環境に対する姿勢が変わってきたように感じます。

「北海道グリーン・ビズ」のメリットである低利融資の実現は、事業者における環境配慮の必要性、重要性を理解いただいた地元金融機関の協力によるものです。この流れを止めることなく、さらに実りのあるものにしていくため、産学官民の連携による施策、取組を重視しています。

環境活動は、行政だけでは限界もあり、うまく運ばないこともあります。そこで、北海道では、環境に配慮した取組を自主的に行っている事業者の活動や商品、サービスのご紹介を通して、環境にやさしい企業や商店、工場、学校などの「環」を広げ、環境と調和する「エコアイランド北海道」づくりを進めていきたいと考えています。

北海道環境生活部環境局長 築地原 康志

世界自然遺産の知床をはじめ、やはり自然豊かな印象です

北海道は、知床や、ラムサール条約登録湿地の釧路湿原に代表されるような、豊かな自然環境に恵まれています。また、風力や太陽光、バイオマスといった多様な再生可能エネルギーを豊富に有しており、大気環境や河川・湖沼の水質なども環境基準をクリアして、道全体としての自然環境は良好に保たれています。バイオマスは、道内で酪農が盛んなこともあり、牛の排泄物を有効活用する成功例が多く、鹿追町などはその代表例だといえます。

エゾシカやアザラシなど、野生動物を管理する時代と言われますが？

観光で訪れる皆様には人気の野生動物ですが、近年の保護政策でエゾシカなどは個体数が急増し、農作物や樹木の食害など農林業に被害が出ています。アザラシについても、本来であれば回遊するはずの個体が北海道内の沿岸に定着してしまい、漁業に影響が出てきている状況です。野生動物の楽園である北海道ならではの問題ですが、今後はエゾシカであれば食用への転換、アザラシについては、適正な生息、回遊個体数に維持管理することが望まれています。

CO2削減には北海道ならではの悩みがあると伺いました

土地柄、冬季の暖房に加えて、車による長距離移動が多い傾向にあります。そのため、やはり化石燃料への依存度は高く、一人当たりのCO2排出量も、全国平均を越えてしまっている状況が続いています。そこで検討されているのが、北海道の豊かな森林や太陽光、風力などの再生可能エネルギーを活用したCO2の削減です。北海道の特性を生かした取組を検証、推進していきたいと考えています。

エコアクション21には期待されているそうですね

CO2を削減するには、道民の皆様には生活様式を変えていただき、ウォームビズなどライフスタイルを変化させていただくよう、道としても啓発に努めています。事業者に対しても同様に、ビジネススタイルの変革を促し、CO2削減に向けた低炭素型のビジネススタイルに転換いただけるよう、地道な活動を働きかけているところです。

そのためにはエコアクション21に期待するところも大きく、北海道内の多くの中小事業者の皆様が取り組みやすい環境マネジメントシステムとして、重要な役割を担っていただいています。



北海道のあらし

面積：83,457 平方キロメートル(国土の約 22%)
 人口：5,463,045 人(男 2,584,535 人、女 2,878,510 人)
 世帯：2,727,383 世帯 市町村数：179(35市 129町 15村)
 トピック：北海道新幹線 H28.3 開業予定

エコアクション21を活かした取組

事業者における環境配慮の自主的な取組を誘導する仕組みとして、平成20年に「北海道グリーン・ビズ認定制度」を創設しました。大手企業を中心としたCSRの取組、大手企業主導による認証取得から、事業者自らの環境配慮行動、取組の促進を図ります。



エコアクション21を取得していれば
最高ランクの「ランク3」に認定
金融機関での優遇融資他

北海道商工会議所連合会では、道内の中小事業者向けに、より簡便で取り組みやすい環境規格として「北海道環境マネジメントシステムスタンダード(通称：HES)」を構築しています。道では、エコアクション21へのステップとして、エコアクション21と併せて、普及促進を図っています。

課題とこれからの取組

心・技・体を磨いていく

心=「意識・行動」+技=「技術」+体=「社会基盤(法的な整備等)」をバランスさせ、エコアクション21やグリーン化プログラムを広めて充実させていくことが課題であり、これから取り組んでいかなければいけないことだと考えています。

